



憲法部類追加

三

73
6205
10



追加
憲恩漢魏類
三



門 7 8
6205
10

[Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page]

一
享保三年二月二十日
御書
福
多
力
官
名



御書
享保三年二月二十日
御書
福
多
力
官
名

成二月

一
享保三年七月十四日
御書
相
解
氏
法
清
法

是

- 一 街營方上役烟兵組改 兵折葉
- 一 街馬系
- 一 進上奉所
- 一 伊實者
- 一 山中胃改
- 一 山小人
- 一 大工棟梁
- 一 年代 組改大
- 一 德同公 身了進馬東山方
- 一 山法炮王系在方 組改者



- 一 吹上江兵組改所 董改
- 一 同沙方方組改
- 一 世任改
- 一 序方方上改
- 一 右令輩 向後耐中 同并七夕八節白惟一切
- 一 皇兵相任方浦山向 急分 下 在 山 上

戊七月

一 享保三年七月廿六日大久保長門殿新於全石
 元拂中納戸以御前多乃一同也也也也也也也

相類の者共々述す。十月と誤り、小書作人歌
中の句後、夫六段、多下二に、今月、是、其
八月、述、其、生、紅、角、用、水、動、以、後、其、爲、
以、り、少、書、格、入、之、主、物、以、破、其、同、故、之、也、
之、相、違、也、

一 京保二由、奉、以、月、廿二日、之、定、大、事、以、之、書、相、傳、
有、之、也、

本月、村、家、著、於、聖、堂、儀、狀、以、之、
但、中、之、神、女、以、白、衣、守、之、者、安、以、紅、衣、
節、之、也、以、傳、之、於、山、之、精、子、以、守、其、也、

揚、中、河、の、橋、大、字、寺、の、間、也、

一 京保二由、奉、十月八日、以、之、書、身、大、久、保、一、而、在、
其、中、也、

但、中、之、祀、之、受、之、印、見、之、了、記、儀、以、之、也、
如、是、一、具、之、身、紅、衣、生、活、日、記、亦、在、也、
其、中、之、向、之、也、也、也、

室

一 京保二由、奉、十月廿一日、以、之、書、大、久、保、二、而、在、

山物記云云

山物記云云書之... 自今ハ常無事... 向ハ中... 山物記

一 嘉保記云云 月六日...

生年山扶持... 抱入... 山物記

那成却... 山物記

但此...

一 嘉保記云云 年六月...

和象... 山物記

山人

一 嘉保記云云 山物記

意は好むは御事早き事上事

一 諸役別ありて之格を勤事大角

不之格好御事其言を達して御事

一新規に依りて之格を好むは御事早き事

中上事

右事候に當り候事有らば御事早き事
向格、意候て御事早き事

五月

一 享保四五年六月十九日迄に御事早き事
此事候

支配内

御代出

此奉りて不親類書と相成りて之事

右之格可相成

右者常々之事候に親類書に御事

平是市迄之先大星下迄之御事

右親類書早き事候に御事改法

此事候に御事早き事候に御事

一 享保四五年十月十日迄に御事早き事

御事早き事候に御事早き事候に御事

江戶別一統並之極中由教以有
左極中有一同浦後中通也
向後隨分其休清是年之極中極別
勤之知有善又言山治之受之
如之流也其別之身物以秋以
休休極中其極中極中極中極中
所皆之極中極中極中極中極中
也今其極中極中極中極中極中

十月

一 享保也 享保也 享保也 享保也 享保也

市在也 相解也

其改也 改也 改也 改也 改也
極中極中極中極中極中極中極中
極中極中極中極中極中極中極中
極中極中極中極中極中極中極中
極中極中極中極中極中極中極中
極中極中極中極中極中極中極中

十月

一 享保也 享保也 享保也 享保也 享保也
其改也 改也 改也 改也 改也

是

但支那者七十歳以上進勤沙役又ハ海軍
御免預備員以上は免成テ本籍を有するもの其
者を勤者、精進員ハ其後沙役以上書付
テ必出也

一 當役者 仁徳の意に依りて其の書付

一 當役相勤員他書付用同左書付係員

此の申上者事

一 又年以東門の過客者 仁徳者事

本之條品有る、其の申上者事

以上

子二月

一 京保大子年三月十日迄ハ書付水野和泉子殿
松平安永前ハ由、其後ハ海軍自定以由ハ其書付
由ハ其書付可也ハ申上者事

先

一 組支那者ハ内當役十年勤者七十歳以上書付

沙役又ハ海軍由 御免預備員以上は免成テ本籍

を有する者、勤者、精進員ハ其後沙役以上書付
上書付の必出也

一 十年以東沙加忌沙ハ者ハ是

一 十年以東他沙用同左書付係員ハ其
申上者事

右之番頭也其并上河内也敬之江原也

新番頭

御物手

御腰物

右者之保任作之殿之江原多中馬之儀
之定大寺下之那合の中其作儀也

一 右同日之定大寺其書の中其書其相備也
之定大寺

右馬身其儀也之目其以作其儀也之儀
其儀也之儀也之儀也之儀也之儀也

一 右其書其相備也之儀也之儀也之儀也

一 瀨沙殿也其儀也之儀也之儀也

一 政之中使箱首為持入其儀也之儀也
其儀也之儀也之儀也之儀也之儀也
其儀也之儀也之儀也之儀也之儀也
其儀也之儀也之儀也之儀也之儀也
其儀也之儀也之儀也之儀也之儀也

一 政之清其儀也之儀也之儀也之儀也
之儀也之儀也之儀也之儀也之儀也

右之通相持也其儀也之儀也之儀也

八月廿二日

一 右聖十一日之先大寺... 法... 上... 及...

一 高保... 八月... 法... 石川

... 法... 是... 法... 石川... 高保... 八月... 法... 石川

書... 子八月

子八月

一 高保... 八月... 法... 石川

先... 通... 法... 石川... 高保... 八月... 法... 石川

子八月

一 享保五年三月廿日 水原守 曹川 延平 殿
水原、延平、曹川 殿

呈上

一 清烟戸 元高子 幸述 十一年 江島 啓 殿
高平 幸述 十一年 江島 啓 殿

一 也幸述 十一年 江島 啓 殿
書付 江島 啓 殿

一 實幸述 十一年 江島 啓 殿
江島 啓 殿

子三月

一 享保六年三月廿六日

川船 用 儀 向 後 爲 禱 亦 彈 書 幸 述 所 啓
川 船 用 儀 向 後 爲 禱 亦 彈 書 幸 述 所 啓
不 爲 出 所 禱 亦 用 儀 向 後 爲 禱 亦 彈 書 幸 述 所 啓
亦 彈 書 幸 述 所 啓

一 中 所 儀 禱 亦 川 船 用 儀 向 後 爲 禱 亦 彈 書 幸 述 所 啓
儀 禱 亦 川 船 用 儀 向 後 爲 禱 亦 彈 書 幸 述 所 啓
以上

社之... 或... 停止...
... 其... 事

以上

五六月

一 享保六 丑年八月... 完大... 相... 子
有... 病... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上

山

一 享保六 丑年十月十八日... 保... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上

是

一 大御書... 布衣... 行政... 任... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上
... 相... 事... 上

大山番之云 仁行也

一大山番より布衣の云 河原に 仁行也

大田の大山番の勤有の云 大田の勤有の云

山番の云 仁行也

一因担取の件 大田の勤有の云 大田の勤有の云

仁行也 大田の勤有の云 大田の勤有の云

右大山番の勤有の云 大田の勤有の云 大田の勤有の云

大山番の勤有の云 大田の勤有の云 大田の勤有の云

大山番の勤有の云 大田の勤有の云 大田の勤有の云

大山番の勤有の云 大田の勤有の云 大田の勤有の云

以上 仁行也 大田の勤有の云 大田の勤有の云

十一月十八日

一 嘉保六年八月 大田の勤有の云

大田の勤有の云 大田の勤有の云 大田の勤有の云

大田の勤有の云 大田の勤有の云 大田の勤有の云

八月

一 嘉保七年六月 大田の勤有の云 大田の勤有の云

正勘定より山田村に有馬無年改敷成り候也

先達より候 山田村先取山田代領事

より候 山田代領事 山田代領事 山田代領事

神田松田友法所より新領事 山田代領事

代領事より候 山田代領事 山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

新領事 山田代領事 山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

黄六月十日

一 家保七官年六月十日 山田代領事 山田代領事

山田代領事

山田代領事

山田代領事

山田代領事 山田代領事 山田代領事

一 又法を以て急に減りぬ味を以て
 一 彼所より拂物不足を以て代有する事
 一 有上物右拂物減り味と法相違を以て
 一 其幸しく此勘定向後幸しく相違
 右之類は勘定所より申渡合て事
 申す

元方山物平臥

諸色山物種々
 拂物不足の法を以て申渡合て事
 申す

方下之書出也

正月

一 享保八年二月廿六日
 出相違

某人

京橋鈴木町

何物也

八市五橋

右之者今般江戸湯着納米事
 送る節未相対法申す

一 享保八卯年六月廿六日大久保仍復寺殿掃地烟平
此後之任准也

五
佛方山烟平
山和子

役所之申書法也通用之系之申取役所之系
想恐之申取申里外休之相極之系不
相恐之申取相有之身先以再篇次休
有之申取申多之申取申系取申取
之極之極之役所之申取申之申取申
之申取申之相極申之申取申之申取申

役所之申取申之申取申之申取申之申取申
之申取申之申取申之申取申之申取申
之申取申之申取申之申取申之申取申

卯六月

一 享保八卯年六月廿八日設其家之間涉申
此列殿其申取申之申取申之申取申

其家之間

高家元

涉尚書元

大御書取

大目身

町奉行

御旗奉行

小普信奉行

御普信奉行

大出番組

御表門切子番

小天吉番

右御老中支配之人宛

御書院番

百人組

御勤之奉行

御儀奉行

御出番奉行

御留番

西九切子番

御慶備番

高士人
御書院番

御少将組番

御将前出持

小普信奉行

御目付

御書院番

西九出番組

小十人組

元拂出番

御取手

御旗奉行

御駒

月光院

御用人

西九出番組

御使番

御少将組

御出番

二九出番

御腰掛

御新出番

小十人組

御用人

御用人

一粒

陽春院

竹縣
内用人

法心院
蓮澤院
杏光院
内用人

右若年寄丸江支配主人宛

諸役人役柄、形意申す如く、若くは御役料、
定直、定下、山、文、知り、ご下有、直、申、定
直、山、御役料、申、山、若、續、着、申、山、係、
今、直、山、御役料、申、山、若、續、着、申、山、係、
山、若、山、御役料、申、山、若、續、着、申、山、係、

任付山役料、増減有、別帳之通、相極、
形、首、下、御、申、山、若、
但、御、申、定、申、外、申、申、山、御、役、料、申、山、若、

千二百石の内、
千二百石の内、
肝、葉、申、山、御、役、料、八百俵、申、山、若、

又千石の内、
又千石の内、
又千石の内、
又千石の内、

御側元
御苗古居元
大御畜改

四千石の内古

四千石の内古

三千石の内古

二千石の内古

一千石の内古

五百石の内古

三百石の内古

二百石の内古

百石の内古

五十石の内古

二十石の内古

御書院出取

御小姓出取

大目付

町奉行

水勘定奉行

水廻奉行

百人組之取

水廻奉行

水廻奉行

西九曲出取

小菅出取

新出取

三千石の内古

二千石の内古

一千石の内古

五百石の内古

三百石の内古

二百石の内古

百石の内古

五十石の内古

二十石の内古

十石の内古

五石の内古

二石の内古

武石の内志

武石の内志

武石の内志

武石の内志

武石の内志

武石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

山形奉行

山形奉行

小笠原奉行

越前奉行

山田奉行

御目付

山使奉行

山書院奉行

山性組奉行

西丸奉行

山形隊

小十人隊

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

七百石の内志

七百石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

千石の内志

七百石の内云
七百石より之儀あり

七百石の内云
七百石より之儀あり

七百石の内云
七百石より之儀あり

七百石の内云
七百石より之儀あり

六百石の内云
六百石より之儀あり

六百石の内云
六百石より之儀あり

六百石の内云
六百石より之儀あり

三百石の内云
三百石より之儀あり

三百石の内云
三百石より之儀あり

三百石の内云
三百石より之儀あり

三百石の内云
三百石より之儀あり

三百石の内云
三百石より之儀あり

二九山内守兵

元方山内守兵
掃方

山腰物奉行

山内守

新山内守兵

山内奉行

大山奉行

小十人組

西切手出守兵

山内切手出守兵

山内補出守兵

山内奉行

七百石の内古
七百石の内古

富士見堂書院

高之巻少書梅
山紋神書石依之古

山形政

七百石の内古
七百石の内古

一位極

清周人

七百石の内古
七百石の内古

月光院極

清周人

又百石の内古
又百石の内古

陽春院極

清周人

七百石の内古
七百石の内古

淨光院極

清周人

七百石の内古
七百石の内古

竹光院極

清周人

七百石の内古
七百石の内古

法光院極

清周人

七百石の内古
七百石の内古

蓮花院極

清周人

七百石の内古
七百石の内古

普光院極

清周人

六月

一 東保九 歷年正月十五日於山崎之間
文久保快後也殿
 河野重隆 河野重隆 河野重隆 河野重隆 河野重隆
石川連紅子殿
 河野重隆 河野重隆 河野重隆 河野重隆 河野重隆
河野重隆

新山書院

小十人氏

山内戸氏

山内戸氏

右之而... 近... 殿... 氏...

此乃山人身... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...
 山崎... 山崎... 山崎... 山崎... 山崎...

書上之案文

又之名

雜

何歳

一取廻... 終相思...

此の自今の家習高下を論じ、女中も
出立の節、誓いし先妻の如く、山崎入
任身之を勤く、松次が布衣以て、山崎
の如く、任身は、女中も、勤め、山崎
布衣以て、山崎人、其の後、
同補、同業、之有、松次、
以と

五月

一 享保九年七月十一日、
唯今、述く、通ふ、名、
仁、

御役料、
山崎、

御役料、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

山崎、
山崎、

百儀子
持杖持杖

以持除之者以

八拾儀子
持杖持杖

以位揮

八拾儀子
持杖持杖

以批灯在

七拾儀子
持杖持杖

表火之

八拾儀子
持杖持杖

以小人以

六拾儀子
持杖持杖

以如子能者以

辰
七月十二日

一 享保九辰 幸七月十日午時行、
且之自方界但十元自之場前、
以次儀之儀子、
和象与殿之儀子、

寺社奉以
御苗与
以勅定在
以儀事在

山苗子居善
小善住寺
西九山苗子居
御 日射
西九山苗子居

一位神
山用人

月主院殿
山用人

瑞春院殿
山用人

養仙院殿
山用人

法心院殿
道隆院殿
山用人

二九山苗子居

夏山若草院殿

山駒殿

御馬音

御書所殿

二九坊主殿

一 享保九年七月十一日... 向後... 中... 間... 浦... 中... 休... 派... 古... 激... 北... 山... 有... 幸... 中... 山... 是... 茶... 預... 差... 由... 山... 場... 所... 也... 幸... 山... 夫... 大... 山... 實... 山... 味... 之... 經... 兼... 山... 治... 者... 山... 勝... 言... 山... 自... 身... 之... 古... 支... 記... 色... 山... 松... 別... 成... 以... 山... 山... 是... 茶... 預... 中... 間... 浦... 山...

高野少不樓
所役技將武振人技將

山法炮玉茶寺山

高野少不樓
所役技將武振人技將

山法炮山管山寺山

同山

山弓矢法山寺山

同山

山具山寺山

同山

山幕山寺山

右之通涉役技將山寺山

山法炮玉茶寺山

山弓矢法山寺山

山具山寺山

山幕山寺山

右之役中人城山寺山向後一役中人完成

山峯之山字了如字忘山

石像了
持技物所

同所

同所

八指像
持技物所

人指像
持技物所

山天字吉吉

富吉吉
山字吉

山字吉
二九

山天字吉吉

山天字吉吉

三指像
非人技持

卦石像了

石人指像了
但亦東山技持方天

八指像了
持技物所

同所

七指像
持技物所

山字吉
二九

山天字吉吉

山天字吉吉

山天字吉吉

山天字吉吉

山天字吉吉

山天字吉吉

八拾俵了

持持物所

山小入以

六拾俵了

持持物所

山如麓者以

右小拾者者物我必以味之勤也

一 享保十七年六月廿九日

去年相達山出先出取以係并漏益書上

後一担より一人宛出取以味書月

但取出取以味書月

山如麓者以

二 相達

一 享保十七年七月廿九日

相解

山家人之月評定所箱書月入以者以

右箱之係中町人百姓所

如右之通

上下相達以係山出先出取以味書月

以對中町人百姓所

山如麓者以

依山如麓者以

四月

去故去改寺

一 享保十二年三月乃云書付出

新所書額

寺書元大の儀本八百以上村ありしを
南に中一なりてはたて大抵揃ひ七方
村ありしを以て慰めし由事一併
是れ賜りし事しはたて来月申改又七八
月改進ありし由一併の三人てり人
揃ひ七方一併村てり事しはたての書由

て書し

三月

一 享保十二年九月申すに
女官抱入御出書者より
為祈儀有る事納しはたて
有る事納しはたて
此仕直し 候事
御所抱入令書
此後右神々書物
兼て書記し

中國書

右之通別書書向

九月

一 享保正 五年九月六日

相渡

頃多敵地... 定役... 當...

九月

田...

一 享保正 五年二月...

相渡

居... 預...

右之通...

十一月

一 享保十九年正月廿六日乃々書身出候上段
此段は波の由布に孫清と相解

諸向の暮の御宿更願帳と名出候湯治
子御は者者勤の旨に入上勤若勤と書か
此段は湯治候と願同物申候向候と
湯治日敷と心取候候仕定候日敷と
方より願申候同浦と名向候と書か

一 享保十九年乃々書身出候
歳有流様御代由申書九輪志願候
堂の長海人よりいもの満目仲候小書

法にのみを五只をとり河原入候もの夫身五
所志願候候申候者申候申候と申候奈
可也相候候節とて相無候候と申
上候事申候候候候候候候候候候候候
節の沙書入候候候候候候候候候候候
者申候申候申候申候申候申候申候申候
内言申候申候申候申候申候申候申候申候
申候申候申候申候申候申候申候申候

一 享保二十年六月廿二日乃々書身
申候申候申候申候申候申候申候申候
西尾 藤波と殿

田村四郎左衛門

磨組同右

書名

酒草

中流

組同右

美作

少

同新

小

右方

所

右方

右方

中

但

一
保
二
年
九
月
八
日
...

相氏と振世との格別な事、振世の格
持する事と相成る事

一新規沙役と、任事ありては、改め内務
中待たせ給へりもの、言作振世と云ふ事
おぼやかりし事あり、おぼやかりし事あり、振世
方眼をわきまを

右へ通自今意後之に記す
九月

一元文元年十月廿六日、山崎守加、海防所
と相成る事

向後所用人、又も出入、本書由りて、
勿論、元文元年、海防所、
月日、沙卷、月日、本書、
本、沙卷、何年、
右へ通、相成る事、

一元文二年、三月、
元文二年、三月、
元文二年、三月、
元文二年、三月、

享保三申年石を色書進上り候に候に
命後山祐より書付申上り候に
申上り候に

但先考を山祐より書付申上り候に
四月廿二日申上り候に

元文三申年土月九日山書付申上り候に
申上り候に

申上り候に
申上り候に
申上り候に
申上り候に

申上り候に

年十二月

一 元文四申年六月晦日山書付申上り候に
申上り候に

一 又勅し奉教し候に
申上り候に

申上り候に
申上り候に
申上り候に
申上り候に
申上り候に
申上り候に
申上り候に
申上り候に

仁付とて多くは且又希方右と記
新十所番方と云 右出未記毎に
罪上云云と右同の云々

一 惣仕向の市衣と仁付と云云
中上川通の毛又切糸と云云
市衣の方元組と云云
布衣の方元組と云云
身切糸と云云
初め仕向と云云

右之趣向と云云
未六月

一 元文に未年九月の日記に
七拾歳以上迄年久浦中
又云小普請入と云云
小普請入又云
後之勤事敷と云云
但云云と云云
右之趣向と云云

九月

一元文六年七月廿二日... 延將星啟

與向之... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟...

八月

一元文六年七月廿二日... 延將星啟

延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟... 延將星啟...

一元文六年七月廿二日... 延將星啟

畢竟強中中好之佳也中山後之精
去也之青也也 也 牙 齒 牙 牙 牙 牙 牙
之 紅 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙
之 紅 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙
之 紅 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙 牙

七月

一覽保元元年六月十日及二十日
中書行在之殿 福地法皇
子相解

子方同由其時又子親類 自貴代為相勤
時也代之者方之親方之者 全力之
何方之官補之任事 勿備以物方也
者之平也 親方之志也 全力之
中間補任之也 勿備以物方也
之方也 中書行在之殿 福地法皇
同公之方限也 全力之志也
之方也

一 寛保元酉年八月十日江戸書房申上
おす之進 右相觸山

御奉公相觸山者初江戸赴之御書申上
出リ留之申上後少候又下相觸山申上
申上御書申上留之申上の御書申上申上
申上御書申上留之申上の御書申上申上
申上御書申上留之申上の御書申上申上
申上御書申上留之申上の御書申上申上
申上御書申上留之申上の御書申上申上

八月

右之御書申上候へども申上



一 寛保二戌年六月十日江戸書房福徳法意
御書申上
百石以下布衣以下、出役人等知取申上
十七年平治申上九日以下、出役人等知取申上
出役人等知取申上、出役人等知取申上
右通向後申上候へども申上

一 寛保二戌年七月十日江戸書房寛徳法意
御書申上
看取申上、看取申上、看取申上、看取申上
看取申上、看取申上、看取申上、看取申上
看取申上、看取申上、看取申上、看取申上

柳之印、之波看處、の夜はくま
相をよよと後ておひ

七月

一 寛保二年三月廿七日
此の物迄、之往留、之可、之見、
也口上、之、之、
松平江田松平殿
松平代後、之、殿

親之、之、之、之、
之、之、之、之、
之、之、之、之、
之、之、之、之、

但、之、之、之、之、

清日、之、之、之、之、

一 寛保二年八月廿六日
家、之、之、之、之、
傳、之、之、之、之、
酒、之、之、之、之、

別、之、之、之、之、
之、之、之、之、
之、之、之、之、
之、之、之、之、
之、之、之、之、
之、之、之、之、

忘却之松遊記 任事の人
送るの中 下り中

一 而して後任法を有する子あり 親類を以て
心より神々 秘めし 其後任法を有する松常公
下り中

一 奥層の酒宴 是れ 石室に於て 嘉慶
の御用也

一 奉りて法後人同法を有する 其後任法
あり 如き事 秘めし 其後任法を有する
酒宴あり 是れ 石室に於て 嘉慶
任法 あり 是れ 秘めし 其後任法

一 奉りて法後人同法を有する 其後任法
あり 是れ 秘めし 其後任法を有する
秘中をいじり 是れ 秘めし 其後任法を有する
是れ 秘めし 其後任法を有する

一 勝手なる言ふ 是れ 秘めし 其後任法を有する
刻も 秘めし 其後任法を有する
是れ 秘めし 其後任法を有する
可なり 秘めし 其後任法を有する

一 方 限り 秘めし 其後任法を有する

一 寄保之書年土月也二日た之信松平九郎
一 如江守町人神之名年一書易仕信之
同神はるてら山神
右之通つてはたき

八月

一 寄保之書年土月也二日た之信松平九郎
如江守町人神之名年一書易仕信之
同神はるてら山神
右之通つてはたき

一 寄保之書年土月也二日た之信松平九郎
如江守町人神之名年一書易仕信之
同神はるてら山神
右之通つてはたき

一 寄保之書年土月也二日た之信松平九郎
如江守町人神之名年一書易仕信之
同神はるてら山神
右之通つてはたき

予一子是純州人多為之也
 中後日

一 延享二年六月廿七日
 此酒の飲むは若くは酒の相續

序あり 任官の沙汰令を夫知く沙汰を由周
 又の御分書改めり望み 汝身を相見たり
 又の御分書改めり望み 汝身を相見たり
 又の御分書改めり望み 汝身を相見たり
 又の御分書改めり望み 汝身を相見たり

右より延享二年三月

一 延享二年三月廿五日
 此酒の飲むは若くは酒の相續

一 諸組の方同公其外惟々者也抱入に
 白後小善法に沙入人

一 右の類角病犯未之
 中後日

一 山抱乃者山脈其外者、山脈歸之山入人、
成山事

一 山中間山中人、市、款、山、漢代、埔、山抱入、
商氣、山、勤、難、成、山、山、一代、山、山、
乃、東、山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、

本、山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、

三月

一 寶、山、山、山、山、山、山、山、山、

山、山、山、山、山、山、山、山、

但、山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、

年七月

一 寶、山、山、山、山、山、山、山、山、
山、山、山、山、山、山、山、山、

考釋忘中書之類也其合以并其類之類
忘似以是類和重何身之書狀產釋忘中書
述之類也其類之類也

但後述狀之類生類之產釋忘中書其類
方之類也其類之類也

右之通之類也

一 宣統二年十月廿日物田相換之類也

宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也

物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也

宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也

一 宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也

右之通之類也

宣統二年十月廿日物田相換之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也

右之通之類也
宣統二年十月廿日物田相換之類也

一寶曆己未年六月廿九日 乃正身一周所去
相渡日

早

古酒奉之 任身于石以同一神儀也
任身而之 乃有夢如也

一仰見高之 淨信而 淨信也 病又有
少善法又各病然也 此是了了也
上納方也

一山行無成之 乃有夢如也 亦切東上
以若于不 惟手もの山形也 切東上 以若上地方
也

一父子之 稱信也 乃有夢如也 父子月了
又各之 信也 淨信也 上納方也

一新 親也 乃有夢如也 淨信也 上納方也

一故而上納方を 例也 乃有夢如也 淨信也

一右之 乃有夢如也 淨信也 上納方也

右拜備上納方を 向也 乃有夢如也 淨信也
向後也 右之 乃有夢如也 淨信也 上納方也

所出之紙、油、紙、物、其、所、相、持、心、也、
言、後、者、相、持、心、也、其、所、相、持、心、也、

丙六月

山形文奉行

一 宝曆九年七月廿七日、此、日、乃、是、身、野、多、行、古、也、
紙、希、々、々、々、

町人、男女、各、類、之、後、之、年、梅、之、古、也、是、年、
二、五、年、山、形、之、心、也、山、形、之、町、人、之、心、也、
同、心、同、心、之、心、也、其、心、也、其、心、也、
町、人、之、心、也、其、心、也、其、心、也、

吾、新、意、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、
其、心、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、
其、心、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、

至七月

一 宝曆九年八月廿一日、此、日、乃、是、身、野、多、行、古、也、
其、心、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、

徳、田、人、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、
其、心、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、
其、心、也、其、心、也、其、心、也、其、心、也、

下之新記の傍に享保二年の事あり
右の記書分ありて之を以て其の
方より右の事なり

八月

一 宝曆十一年四月廿日
又廣山後山中曲瀾勝治所

御中丸西丸入替り
此と名ありて之を以て

一 大船は
御中丸と云ふ

舟中丸の西丸と云ふ
末座舟中丸
右へ通ては相違なし

八月

一 宝曆十一年六月
十月の事あり

先程の事圓舟は江戸外
近例中丸と云ふ
此の事ありて之を以て

お徳

六月

一 宝曆十一年五月六日山内行徳と殿御書付
本年絶交取らせし御書付は通

忠之 御目見は不快申家へは牌を
と以て所奉置しよの事と申せし御書付は
牌を申似奉りぬ御書付は
有と取らせし御書付は
徳と名を夜お目 家へは牌を
ととの見物ありと捕と名を夜お目奉

行中流

右の御書付は通

七月

一 宝曆十一年八月廿六日山内行徳と殿御書付

諸向の方眼帳御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通
御書付は通

ては違ふ

右の如實に記す事相違ひは之以後平書
書付不承申す向し之は此の如き下書
透受る事申す向後大井何勢と申す
書付不承申す

八月

一 宝曆十一年申年六月廿六日
歳以迄の如く及目書付不承申す

享保二十年卯年九月廿七日

此の如く書付 所城江向、申す事享保二十

卯年三月廿七日未文 透り字に記

諸役人徳島御前之長辨及申す
振回申す候事、相違ひ申す事
有、經相違ひ向後右所之候事
申す事、享保二十年卯年
相違ひ申す事、申す事、右之候
事、申す事、申す事、申す事
申す事、申す事、申す事、申す事

但場、申す事、申す事、申す事、申す事
申す事、申す事、申す事、申す事、申す事

お古向いより三知すお仇いよ
信よりすしりる古き勤し西より別
書り心より急相与實
あり結未おわたり事

右より結よりお連す

六月

一 明和二年二月十日
信徳寺殿藏
山源より新庄織物より

先祖より奉回未身江戸介業提新嘉
依相預り若し有よりより身一代より

之相許名若連る相違江戸介より
晴新中より身一代二箇本根孝志より
系信流より名相取より是示より
但江戸介より身一代二箇新中先連る
相違より通より

右より結より記より而より通より可連る

二月

一 明和二年八月九日
出創江戸介江平江在
口より結より若書り心より通より

表より結より心より通より

昨午遊ふりて少人相見けり相見て喜まはるる
明午有る我らも少人有る此の首勤着る歌
聞て有る我らも右身古組にて相見て喜
勤功且帰所にて業を由緒を我ら相見
ゆを此を去るに安んずる言ひて我らも
例にて少人友相見て我ら相見て喜
これ若くは相見て喜むるに
相見て喜むるに少人同右に通て喜むる
少人相見て喜むる

一 昭和二年九月十一日 曲淵勝治より相見

林曾諸組より同公役出立或は我らも相見
此組、相見て喜むるに我ら相見て喜むる
此組、相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる
相見て喜むるに我ら相見て喜むる

九月十日

曲淵勝治

松平左近

一 昭和日記 辛巳月廿六日 松平松平寺殿 以成
以成 以成 以成 以成 以成 以成 以成 以成 以成 以成

徳向新設 任其如也 故能故其得
以之より 儀の海 故の 故の 故の 故の
者古故の 故の 新故の 故の 故の 故の
其別と 故の 故の 故の 故の 故の 故の
一同に 故の 故の 故の 故の 故の 故の
其別と 故の 故の 故の 故の 故の 故の
其之と 故の 故の 故の 故の 故の 故の
古故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の

辨當之 介法の中 道果未く 而く 而く 而く
出 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
間 有 故の 故の 故の 故の 故の 故の
儀 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
大具 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
以 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
者 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
中 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の
根 故の 故の 故の 故の 故の 故の 故の

有之間一問格別中合之者否

右之類之相觸

二月

一安永九子年十月七日酒申右見古殿以成以取

四月身御生之膝正之達

信向新波之 仁之古殿之著之相傳
候之其及節候之古事之浦波
其之古事之有之類相之古事之
候之候之類相之古事之

平日所聞之出合之古事之候之類相之
候之其及節候之古事之浦波
其之古事之有之類相之古事之
候之候之類相之古事之

十月

一天明元也年十月款日酒申右見古殿以成以取

四月身御生之膝正之達

出羽古山膳之類之

一拜信身以善達類之古事之候之類相之
法類法向古事之連也膳之古事之

台ハ以東出羽古上之考也

一人馬 御東即其證文類志是述出勝志

中ハ括出ハ方ハ以東月夜ニ志年ハ之也
由也

一證文并 表書ハ是述出勝志方志年即叙
之方ハ以東出羽古上ハ即叙也

一遠國ニシテ中越海善信也之叙ニ即ハ用
筋ハ後志ニシテ志年連名ニシテ越ハ方以東
出羽古上ニ即叙也

右ニ類向ノ一ノ考ニ相違也
九月

一同奉十月十二日酒井石見之叙是廣出勝也自分
師ハ大膳也遠也

出羽古上勝志掛也 仁持ハ外志大故也即
志年ニシテ出勝志年ハ用筋ハ後志ニ即叙也
志年ハ出羽古上ニ即叙也後志年ハ志年ハ後
志年ハ志年連名叙 出羽古上書加ハ後
志年

右ニ類向ノ一ノ考ニ相違也
十月

一天正三年六月十八日

太田佐後志叙也
井作掃部頭

備中守 殿 御書 後 御 抽 抱 一 日 持 御 申 下
候 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
向 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
見 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
此 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
相 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
右 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下

一 天 正 七 年 六 月 廿 日 是 日 田 代 後 守 殿 御 申 下
此 月 身 再 上 御 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
其 相 備 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下

御 聽 極 別 下 思 申 下 高 百 儀 申 下 持 持
此 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
積 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
方 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
即 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
此 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下
右 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下

六月

一 天 正 七 年 七 月 朔 日 是 日 田 代 後 守 殿 御 申 下 申 下
此 月 身 再 上 御 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下 申 下

一 柳花近西湖
相与相心自身曲
一人家
能使人

公方操 出河 街日思之

上意有之

有德既操 任出 通事

思之 通事 勤

上意有之 勤

勤 勤

勤 勤

入街相... 勤

公得之

勤

上意有之

勤

勤

勤

勤

後明院様 思召之者下様

思召神恩候事思入候事候事候事
世役人志候事候一和家事不相之事候
所召心候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事

上意之候一日甲乙候事 所安之候
物之忠勤之候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事
榮耀候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事
主候事候事候事候事候事候事候事
追候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事
今日右 上意有候事候事候事候事
若悪事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事
御事候事候事候事候事候事候事

右忠勤之功... 一已之... 合之...

一 天... 七月... 四月...

文武之道... 師範... 書...

一 學文... 軍學... 右...

一 武藝... 右學... 武...

右之... 七月

一天昭七年八月六日未定彈子強敵也

此處山同身

近奉相續也此處最多年間東出冰也
此收納已奉相減也以此故也昔年天町立山叙
此乃多由名其也外所去也其有之也之入
彩浦傳身也指子向此也其支也其成也信
去印年也 往也也後約事限不抱其
未奉也奉之有奉連之奉間也信約之信
敬也也 往也也其進也向也其之也其也
役約也出也其也其也其也其也其也其也其也其也

此處一奉之奉也其也其也其也其也其也其也其也其也
此也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
有之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
之奉也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
役約限也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
松波 也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
英也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
早也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

勤事之人心用城山地事甚苦之勤即列
願此山後之國事之出情之故也忠
也子高也仁也節也忠也義也
也之也之之國事相及之也故也相背
也後之也人之節後之也相背
節一已之私也相背之也道也みりき
此不盡之也費之也相背之一也相背也
勤也事也相背之也要也

未八月

近事打候形毛是宜也收納も相減りとも年

出方未有之也別之也相入り莫大も相及り
去り年也 仁也相背之也相背之也
別之也高也事也事也之也年也之也
貴也相背之也 仁也相背之也相背之也
此身之也右も高也相背之也相背之也
右身之也相背之也相背之也相背之也
中身之也相背之也相背之也相背之也
將軍堂下相背之也相背之也相背之也
之也相背之也相背之也相背之也相背之也
也之也相背之也相背之也相背之也相背之也

相贈りも相背之也

右之解と相解

未八月

近年暫素の并役は、後方共ひて、先年見ん之
 心を更志す間、族も之を以て、故者も在る所
 傳、之も之も、自勝多向、一も亦、志、お成
 心、勤、向、共、申、由、あり、心、態、を、平、願、内、之
 多、高、と、心、態、不、任、候、之、お、成、由、一、幸、候、後
 素、之、も、不、知、念、者、を、及、早、知、候、素、之、
 偏、を、心、態、あり、在、ら、ぬ、不、知、念、之、相、解、事、候、大
 一、已、之、不、是、候、之、一、京、保、事、申、上、任、知、由、也、

近年、右、白、梅、嫁、要、之、親、式、答、意、非、善、候、之、介
 道、果、然、及、し、候、与、あり、候、と、之、堅、之、相、替、候
 素、お、周、山、之、巾、之、風、俗、之、多、本、深、草、可、不、果
 心、態、也

右之解一の相解

八月

万石以下、市、旗、あり、而、之、中、同、以、等、人
 一、意、類、諸、道、果、お、随、方、且、各、一、周、去、ク、云、見、人、方、
 之、持、之、周、之、新、親、之、儀、あり、お、成、申、上、の、相、解、
 之、以、由、之、介、之、親、式、也、之、若、き、各、別、年、日、也、

白山神宮の事

但上意の事と偽敷忌用は之の後に各
忌用する事

一家の事と衣類の事
二、用く事 綿布を更け何れも勝る
仕様の事

一家の事と急使の事

一、急使の事 公儀、御儀を別家智恵婚を
之れより急使の事と錯差の事と之れを
急使の事

一家智恵婚の事と振寄の事
此は急使の事と之れを急使の事と錯差の事と之れを急使の事
急使の事と急使の事と急使の事と急使の事
急使の事と急使の事と急使の事と急使の事

但希、急使平日用の給物之れより急使
中間挿の事

一、可成細事の事
右急使の事何れも急使の事何れも急使の事
急使の事何れも急使の事何れも急使の事

右急使の事何れも急使の事何れも急使の事

八月

享保十三年八月 任官の経典を以て内相解
進年衣後服官に用ひ給ふに先考あるに
無く後藤く相成 其定く人教未だ不
有く類もあらず年暮る未だ未だの事
ふ終く一のにおるを

右に語万石のりく面くあは相解

未八月

天明七年九月十八日乃く山書付一を在年書書
山内府多門年抄り終達

享保年中任人為景官於學堂日く海秋
任林大守以て任官の経典を以て内相解
日く朔日時より九の時迄に内相解
右に徳園志有く筆を貴族不限有堂
其後任官の経典を以て

右に語向く山書付一のり達

九月

同奉九月晦日乃く山書付酒并花彈と敵の任官
河内守書付

山書付のりく其文記く人物の達は任官一

所行い來り相礼進るる事
成るありし捕生由上
及中を並し所より
捕方より名をい所方より
は新より
金

本通りと相續
九月

天明七年十月廿日
大田儀中へ
山原

遠國状は是法向の
相用の料紙に依り
相用の向も
此間
遠國状
紙
中の書
相成
周

あゝ通向くよの事達をい

九月

天明七年十月三日を他希と殿洋合ふべく
此後

一 田沼主殿政勤役不申と申中其有るは身也

山崎多向の事此後云々相成

市先代は病中達 市聴は沙汰に就

有るは安齋進也 市聴は身中其

市腹は身中解は身中其相意は為徳也

市方七子石の上隠居は 任は身中其徳也

きりくくお徳名は 任は身中其徳也

市先く代市は之を徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

市先代は此者思ふに皆し有るは身中其徳也

天明八年六月廿六日わつて申す身中其徳也
此月身中其徳也

待藝術書出之後在予書院之後是許大
員保結人多且後是許員保又少
所員少時有予大幸書由結
但以此記之取集每卷之序
右之結記之也記之也

六月

天正八年六月九日乃乃以書身志同任今之殿以海
以歲也月身復深影之所此也

小橋和宗有事仗也奉以勸律也
又之名町人元由得此法也
進之也也而於此也

備周守是海之子依其記之町方之志也
任其之儀家米在相企也取而為中且文以
予予力同方也町方也今予信也
為中其之町方也今昔字是也町人元也
答其意也信也信也町方也賴也町方同也
伏見彼在安慈團之內門者人括其也
自方之勝也予相止也信也予不仍海也
弟居之也予相也予今取領也予信也
信也其也也而海也志我周也予信也

可相性中、山系先等、此山に在りて
後、仕るが儀、是等、此山に在りて
和京後、遠く相寄る、是等、此山に在りて
右に通る、此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて

右に通る、此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて

六月

天明八年七月十日、此山に在りて、形故、下、此山に在りて
曲、此山に在りて

此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて、形故、下、此山に在りて

七月

天明八年九月三日、此山に在りて、形故、下、此山に在りて
此山に在りて

故自分存存難書如何書待方之心其所以
多々又自分存存難書如何書待方之心其所以
八云々相違ハ故有之ハ身向後方存存
願何書 子心其出結去記之ハ其意後
二ハ相違ハ事

同奉正月吉日及今正月高初御方書殿及殿内及
何儀 早云々

陸奥常陸中野園之内ハ其邊東橋別人故
相減子修業地ハ其邊東橋別人故
人少好方ハ其邊東橋別人故

村々之内橋別人少ハ其邊東橋別人故
之障ハ其邊東橋別人故
地政ハ其邊東橋別人故
故其邊東橋別人故
其邊東橋別人故
相減ハ其邊東橋別人故
拍り結存ハ其邊東橋別人故

ては相約は

右と通西より相達に向くは相約は

三月

寛政元年三月十九日
此書は好馬と教の河川に成
此月廿日故知小高橋より書す

諸君御代々其家柄に
若し手招引の多様
名希流儀と此月二十日書す

但前、
上流より下流に書す

右子願ひ支地にて相達は

四月

天明八年三月廿日
此書は此月廿日書す

百石以上は人出方
方限は此方の
此書は此月廿日書す
二月廿日
此書は此月廿日書す

後をあらわす書出のち及はる所徳方張全あり候
此物定新のち張全あり

本之通句のち張全あり

寛政元酉年寅月一日に空身丹波に於て浦原より候
西月身河津島を渡りて

此抱場法組より同公之御海島を渡りて
あり候所は是と云ふ候に候もの。後抱入
候所は此を御事と云ふ候に候もの。後抱入
候所は此を御事と云ふ候に候もの。後抱入
候所は此を御事と云ふ候に候もの。後抱入

其由森山御所地未或も山を出入り候に候
抱入不相預のち人より相預あり

一此順中澄の御所。病死あり候所は厄女未
者も手振列し奉教相勤は者。時奉輩の
相意くもの後抱入あり。候所の是又後抱入
あり相勤あり

右之通句のち張全あり

同年六月六日夕に書出候事。執事と殿より西月身津保
西月身張全あり

後抱入候所は西月身張全あり

懐小の形跡 宿記あり 此海に尼舟ありて其の
海に捨つて 幸教お勤に 其の 憐れ業業に 慈悲
と 其の 懐入る 相預言 おきい 其の 身日 其の
者といふ 此の 懐も 是速と 其の 如
此の 懐も 其の 捨つ 幸教 勤
者 憐し 相意成 其の 懐入る 相取に 捨つ
幸教 憐し 相意成 其の 懐入る 相取に 捨つ
新規抱入る 相取に 其の 身日 其の 親教
不限由 端あり 其の 捨つ

右の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教

性五の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教

寛政元酉 五月廿五日 乃心書 松平頼朝 其の 親教
中上 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教

懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教
同 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教
定 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教
身 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教
大 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教
同 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教
右 其の 懐入る 相取に 其の 身日 其の 親教

若ハ之月書ハ事不相類トシテ今ハ是書
祖支記ニ考核スルニ相異ナリ故書出ル
疑念ハ上ニ右神宮ニ核スル事アリ
この書ハ

古くは書ハ之ニ違フ

寛政元元七月廿七日奉書安美對馬守殿ニテ改改
十部在也

而衣以上市人ハ此島方也於田行海臣宿
舊制ハ信ハ其ハ信方ニ在也人ハ之也方ニ
一領ノ事ハ元徳ノ事ニ

元 仁皇ノ帝衣也人傳ハ述述ニハ 是
其後穿ハ傷ハ此ハ之ニ年目ニ述ニハ撰
者トシテ實ニ是ノ信ハ信人法也此方
大一同ハ撰者トシテ後年毎ノ事ハ入
之ニ中ニ十七年解也信ハ信人法也此方
信ハ信人法也此方ニ在也人ハ之也方ニ
其方ハ也信ハ信人法也此方ニ在也
是又年叙勅也 是又年叙
少後也年叙勅也 是又年叙
是又年叙勅也 是又年叙

少領を以て趣き達出汝は、うたし仰ふ事と云
江之口云々

七月

右と通道順に交預り法後人、
以て上知たる趣一りの達云々

寛政元年七月廿八日、
少領少領費は新三所は達云々

市役勤作に依帳を以書分預給し、
深引引渡江に向ふ、
及此又志記を以て、

不殘引渡有、
但手留之儀を以て、
役、

右と歸存後人、
七月

寛政二年九月十日、
以後四月廿日、

一、
書分、

一 但支記の故書は後書より其の厚きが如く
別紙に附する方より其の厚きが如く
その厚きが如く

一 巻中の内軸の糸は後紙の糸用向く何れ
書小は是又掛り糸中若くは糸扣不及は其
向くは糸の厚きが如く

一 緒拜備の糸高圓後書は其の厚きが如く
糸上の糸は其の厚きが如く
同めよ其の厚きが如く
但此の糸は糸の厚きが如く

一 結向の糸は其の厚きが如く

糸其向くは糸の厚きが如く

一 糸常定糸の糸は其の厚きが如く
糸扣の糸は其の厚きが如く

一 此は正何糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

右の糸は其の厚きが如く
取用する糸は其の厚きが如く
糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

九月

寛政二四年三月五日
此後四月同日官位名義
増入改二四年三月五日
此後四月同日官位名義

一 百石以上官位名義
此後四月同日官位名義
一 百石以上官位名義
此後四月同日官位名義
一 百石以上官位名義
此後四月同日官位名義

但隱在端子遠愛より前名あり

一 徳向徳支記
此後四月同日官位名義

上改定の中
又名を減成り
相成り
方限帳掛
大目付

一 徳向方限帳掛
此後四月同日官位名義

右之類向
此後四月同日官位名義

十二月

寛政三年正月十日
此書中何事
汝情敬

石以りて
御宮系
一わら

正月

渡
一
庫

本家藏書

